

- ア厚生労働省健康危機管理調整会議の開催(厚生労働省対策本部の設置)
- イ職員の現地派遣
- ウ関係部局への協力要請
- エ関係省庁及び関係機関への協力要請
- オ厚生科学審議会感染症部会等の開催
- カ(一類感染症から三類感染症まで以外の既知の感染症の場合)指定感染症制度の適用
- キ新感染症制度の適用
- ク(検疫感染症の場合)検疫法の適用
- ケ海外の機関への協力要請

- 結核感染症課は、対応方針について、健康局長の判断を仰ぐとともに、対策の実施に当たって他局との調整を要する場合等には、厚生労働省健康危機管理調整会議の主旨に対し、同会議の開催を具申する。

(2) 厚生労働省対策本部の設置

感染症による重大な健康被害が発生し、又は発生するおそれがある場合には、厚生労働省健康危機管理基本指針第2章第3節により、厚生労働省対策本部を設置するものとする。

(3) 現地派遣

上記(1)の結果、職員の現地派遣を必要と判断した場合、結核感染症課は、関係課とともに、直ちに派遣チームの編成を行う。なお、国内における事例にあつては、派遣チームは、各都道府県等の対応を支援するものとする。

(4) 関係省庁への協力要請

- 結核感染症課は、対策の実施において、関係省庁の協力が必要不可欠又は有効と判断される場合には、当該省庁に対して協力を要請する。

(5) 指定感染症制度の適用

- 一類感染症から三類感染症までになっていない既知の感染症の発生例の場合、結核感染症課は、指定感染症制度の適用を検討する。また、日本国内に常在しない感染症の発生例の場合、同時に検疫法第34条の適用も検討する。なお、これらの手続きに当たっては、原則として、厚生科学審議会感染症部会等を開催し、その意見を踏まえる。
- 結核感染症課は、人権尊重の観点も考慮した上で、法に定める予防措置のうち、必要最小限のものを適用するよう、政令で規定することを検討する。限定適用を行う場合は、以下の条件に合致する予防方法に限って適用することとする。

- (1) 危機管理のために必要不可欠な措置であること。
- (2) 当該措置よりも人権を制限しない代替手段が存在しないこと。

(6) 海外への協力要請

- 国立感染症研究所は、発生例の病原体と疑われるものが、日本国内で同定できない場合、直ちに、当該病原体を同定する能力をもつ海外の感染症対策の機関に対して連絡をとり、関係省庁へ協力の要請等を行った上で、最も早く当該研究機関に検体が送達される輸送方法を用いて検体を送達する。なお、国立感染症研究所は、検体が送達された場合、その旨を結核感染症課に連絡する。結核感染症課は、国際課及び関係各課に対して、検体が送達された旨を連絡する。
- 結核感染症課は、日本国内での発生例がない等の理由により、厚生労働省のみでは対策を早期に立案できないと判断した場合、健康局長の判断を仰ぎ、国際課と協議した上で、CDC又はWHOに対して、人員派遣を要請する。

(7) その他

発生例が、感染症によるものであることが否定された場合には、結核感染症課から所管課に業務を引き継ぐ。

(3) 対策の判断過程の明示及び政策効果の検証

別紙1のレベル3以上の場合の対応が必要と判断された場合、以下のことを実施する。

(1) 対策決定後の内容公開

- 結核感染症課は、対策を決定した段階で、別紙1の情報配布先に対し、以下の情報を提供するとともに、当該情報を国民に対して公開する。

- ア 対策の内容
- イ 対策の前提となったデータ
- ウ 国民への周知事項

(2) 危険がなくなるまでの間の監視体制

- 結核感染症課は、対策実施後、定期的に以下のデータを把握する。なお、「※」のデータは、把握時点での瞬間値及び累積値を把握し、対策の有効性を検証する。

- ア 患者数(※)
- イ 入院者数(※)
- ウ 重症者数及び重症者の状況(※)
- エ 治癒者数及び死亡者数(累積値及び前回把握時との差引値)
- オ 無症状病原体保有者数(※)
- カ 周辺医療機関の対応状況
- キ 現地の自治体における対策実施状況

- 結核感染症課は、現地紙の報道の動向を確実に把握する。

4 実施要領の見直し

この実施要領については、必要に応じて改訂を行うものとする。

(別紙1)感染症発生時のレベル別対応表

レベル	海外感染症発生例 (国内に常在しないもの)	国内の伝染病発生例	感染症発生動向調査	情報配布先	対応
0	・国内への影響はないと想定される場合(常在国での黄熱発生など)		・特異的な傾向がない場合	結核感染症課	・情報の分析
1	・国内への影響はないと想定されるが、WHOが対策を講じている等経過観察が必要な場合	・散発例で、周辺地域への影響がない場合	・特異的な傾向はあるが、状況観察で足りる場合	(レベル0に加えて) 健康局長 健康局総務課長 大臣大臣官房厚生科学課 健康危機管理官 医薬局食品保健部企画課 検疫所業務管理室長	(レベル0に加えて) ・詳細な発生情報等の収集 ・WHO等からの情報収集
2	・国内への軽度な影響が想定され、個別の対策を必要とする場合	・集団発生例のうち、感染経路がほぼ特定されて、周辺地域への影響が想定されない場合	・特異的な傾向があり、個別の対策を必要とする場合	(レベル1に加えて) 厚生科学課長(健康危機管理調整会議主査) 厚生労働行政総合情報システム(WISHNET) 検疫所 医師会	(レベル1に加えて) ・治療情報等の収集・提供 ・海外の感染症の発生例の場合は、検疫所において、海外渡航者向けに情報提供する。

3	<ul style="list-style-type: none"> 国内への重度の影響が想定されるか又は国内での発生が急増しており、緊急に対策を必要とする場合 	<ul style="list-style-type: none"> 集団発生例のうち、感染経路が特定できないこと等から、周辺地域への影響が想定される場合 最近国内で発生例のない感染症の散发例 	<ul style="list-style-type: none"> 全国的な発生の増加が予測され、緊急に対策を必要とする場合 	(レベル2に加えて) 厚生労働大臣 関係省庁 報道機関(記者レク) 厚生労働省ホームページ 緊急FAX(健康危機管理調整会議の結果に応じ)	(レベル2に加えて) <ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省健康危機管理調整会議の開催 国内の場合は、現地派遣 指定感染症制度の適用の検討
4 (非常事態)	<ul style="list-style-type: none"> 最近前例のない規模又は種類の感染症が現に侵入したか侵入するおそれが高い場合 	<ul style="list-style-type: none"> 重大な疾病による大規模集団発生例 重大な疾病による最近国内で発生例のない感染症の集団発生例 新感染症が疑われる患者の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 全国的な発生の増加がみられ、緊急に対策を必要とする場合 	(レベル3に加えて) 内閣総理大臣 WHO	(レベル3に加えて) <ul style="list-style-type: none"> 関係省庁連絡会議設置の検討 新感染症制度の適用検討 CDC又はWHOへの協力依頼の検討

(別紙2) 厚生労働省内感染症対策一次対応者

所属	一次対応者
健康局長、書記室	局長、書記、管理係長、経理係長
健康局総務課	課長、政策調整委員、科学技術調整官、総務係長、企画法令係長
健康局総務課地域保健室	技官補佐
健康局疾病対策課	課長、技官補佐
健康局疾病対策課臓器移植対策室	室長、臓器移植指導官
健康局結核感染症課	課長、感染症情報管理室長、総括補佐、法令補佐、技官補佐、国際感染症情報専門官、総務係長、企画法令係長、管理係長
医薬局食品保健部企画課検疫所業務管理室	室長、総括補佐、技官補佐
大臣官房厚生科学課	主任科学技術調整官、健康危機管理官
大臣官房国際課	技官補佐

(別紙3) 感染経路等別関係課

感染経路等	担当課	担当者
海外	大臣官房国際課	技官補佐
	医薬局食品保健部企画課検疫所業務管理室	技官補佐
食品	医薬局食品保健部監視安全課	技官補佐
ペット・家畜	医薬局食品保健部監視安全課	技官補佐
空調施設	健康局生活衛生課	技官補佐
水道	健康局水道課	技官補佐
医薬品(血液及び血液製剤を除く。)	医薬局安全対策課	技官補佐
血液及び血液製剤	医薬局血液対策課 医薬局安全対策課	血液対策課:技官補佐 安全対策課:技官補佐

移植(臓器、造血幹細胞、組織)	健康局疾病対策課臓器移植対策室	臓器移植指導官
異種移植	医政局研究開発振興課	技官補佐
母子感染	雇用均等・児童家庭局母子保健課	技官補佐
病院内感染	医薬局安全対策課	技官補佐
	(国立病院の場合、医薬局安全対策課に加え、健康局国立病院部政策医療課)	技官補佐
老人関連施設	老健局総務課 社会・援護局福祉基盤課	総務課:法令補佐 福祉基盤課:法令補佐
障害者関連施設	社会・援護局障害保健福祉部精神保健福祉課 社会・援護局福祉基盤課	精神保健福祉課:技官補佐 福祉基盤課:法令補佐
児童福祉施設	雇用均等・児童家庭局総務課 社会・援護局福祉基盤課	総務課:課長補佐 福祉基盤課:法令補佐
生活保護施設	社会・援護局保護課 社会・援護局福祉基盤課	保護課:総括補佐 福祉基盤課:法令補佐
プリオン及び感染症であるか不明な疾病	健康局疾病対策課	技官補佐

[トップへ](#)

健康危機管理について



国立感染症研究所
感染症情報センター

[English](#)

[感染症情報センター](#) | [IDWR](#) | [週報](#) | [年報](#) | [資料](#) | [お問い合わせ](#)

[ホーム](#) | [疾患別情報](#) | [サーベイランス](#) | [各種情報](#)

[IDWR](#) | [IASR](#) | [感染症流行予測調査](#) | [JANIS](#)

[サーベイランス](#) | [IDWR](#)

● IDWR (感染症発生動向調査 週報)



PDFダウンロード/週報ダイジェスト

病原体情報

海外感染症情報

感染症の話

読者のコーナー

過去10年間との比較グラフ

▶ 週報グラフ ▶ 月報グラフ

報告数データ

- 報告数一覧表
1999-2005年
- 年別報告集計表
1999-2003年
- 過去データ
(1999年12週/3月までのデータ)
- ...
- 結核発生動向(RIT)

- 報告週対応表
- 感染症の種類・届け出のための基準
- 獣医師が届出を行う感染症と動物 [届出基準・ガイドラインなど]
- インフルエンザ様疾患発生報告(学校欠席者数)

厚生労働省

検索

拡張検索

ホーム | 新着情報 | 窓口一覧 | よくあるご質問 | ご意見 | リンク集 | サイトマップ

健康

平成16年結核発生動向調査年報集計結果(概況)

- 本年報は、全国の都道府県・政令市・特別区から保健所を通じて報告される結核患者等の状況(平成16年1月1日～12月31日)を取りまとめたものである。

平成16年 年報のポイント

- 新登録患者数・罹患率は5年連続で減少している。(参考資料 4、5、6 参照)
 新登録患者数 29,736人
 罹患率(人口10万人対の新登録患者数) 23.3 (対前年比1.5減)
- 20歳代の新登録患者数は減少したものの、10歳代の新登録患者数は横ばい。(参考資料 5 参照)
 10歳代の新登録患者数 338人(前年より1人増)
 20歳代の新登録患者数 2,528人(前年より270人減)
- 患者が発病してから初診までの期間は前年と同じ。初診から登録までの期間は短縮傾向にある。(参考資料 1 参照)
 発病～初診までの期間が2か月以上の割合 18.8% (前年と同じ)
 初診～登録までの期間が1か月以上の割合 25.0% (対前年比 1.0 減)
- 新登録患者における70歳以上の高齢者の割合は約4割を占め、増加傾向にある。(参考資料 5 参照)
 70歳以上の新登録患者の占める割合43.9% (対前年比1.0増)
- 国内の地域間格差は依然大きい。特に大都市部の罹患率の格差はやや拡大した。(参考資料 2、7 参照)
 大阪市の罹患率(61.8)、東京都特別区の罹患率(34.7)は、それぞれ長野県(10.4)の5.9倍(対前年比0.2増)、3.3倍(対前年比0.1増)

(1) 新登録患者数、罹患率(参考資料 4 参照)

- ・平成16年中に新たに結核患者として登録された者の数は29,736人で、前年より1,902人減少している。
- ・罹患率は23.3であり、前年の24.8より1.5ポイント減少しており、減少傾向が続いている。
- ・菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数は11,445人で、前年より412人の減少である。菌喀痰塗抹陽性肺結核患者が新登録結核患者数に占める割合は38.5%で前年より1.0ポイント大きくなっている。

区分	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
新登録結核患者数	39,384人	35,489人	32,828人	31,638人	29,736人
罹患率(人口10万対)	31.0	27.9	25.8	24.8	23.3
菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数	13,220人	12,656人	11,933人	11,857人	11,445人
新登録結核患者数に占める割合	33.6%	35.7%	36.4%	37.5%	38.5%

- ・都道府県別に罹患率をみると、大阪府、東京都、兵庫県の順に高く、長野県、山形県、山梨県の順に低い。罹患率の一番高い大阪府は、罹患率の一番低い長野県の4.0倍、大阪府の中でも大阪市は長野県の5.9倍であり、地域格差は依然大きい(参考資料 2、7 参照)。

(2) 結核登録者数、有病率(参考資料 8 参照)

- ・平成16年末現在の結核登録患者数は72,079人であり、前年より5,132人減少している。うち、活動性全結核患者数は26,945人であり、前年より2,772人減少している。
- ・有病率は21.1であり、前年の23.3より2.2ポイント減少している。

区分	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
結核登録患者数	99,481人	91,395人	82,974人	77,211人	72,079人
活動性全結核患者数	41,971人	36,288人	32,396人	29,717人	26,945人
有病率(人口10万対)	33.1	28.5	25.4	23.3	21.1

(3) 死亡者数、死亡率、死亡順位(参考資料 3.9)

・平成16年中の結核患者の死亡者数は2,328人で、前年に比べ9人減少、死亡率は前年より0.1減少し1.8となっている。死因順位は、前年と同様25位である。

[トップへ](#)

[健康](#) [厚生労働省ホームページ](#)

厚生労働省

検索 拡張検索

ホーム | 新着情報 | 窓口一覧 | よくあるご質問 | ご意見 | リンク集 | サイトマップ

健康

感染症報告数(1類~4類感染症【全数把握】) (1類~3類感染症)

疾病年次		一類感染症							二類感染症							三類感染症
西暦	元号	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る)	痘そう	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	コレラ	細菌性赤痢	腸チフス	パラチフス	急性灰白髄炎	ジフテリア	腸管出血性大腸菌感染症	
1999	平成11	0	0	-	-	0	0	0	39	620	72	30	0	2	3,117	
2000	12	0	0	-	-	0	0	0	58	843	86	20	1	1	3,642	
2001	13	0	0	-	-	0	0	0	50	844	65	22	0	0	4,435	
2002	14	0	0	-	-	0	0	0	51	699	63	35	0	0	3,183	
2003	15	0	0	0	0	0	0	0	25	473	62	44	0	0	2,999	
2004	16	0	0	0	0	0	0	0	83	577	66	86	0	0	3,643	

(4類感染症【全数把握】)

疾病年次		E型肝炎	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	A型肝炎	エキノコックス症	黄熱	オウム病	回帰熱	Q熱	狂犬病	高病原性鳥インフルエンザ	コクシオイデス症	サル痘	腎症候性出血熱	炭疽
西暦	元号														
1999	平成11	-	-	-	7	0	23	0	12	0	-	0	-	0	0
2000	12	-	-	-	22	0	18	0	24	0	-	1	-	0	0
2001	13	-	-	-	15	0	35	0	42	0	-	2	-	0	0
2002	14	-	0	-	10	0	54	0	47	0	-	3	-	0	0
2003	15	2	0	12	20	0	44	0	9	0	0	1	0	0	0
2004	16	35	0	136	25	0	39	0	7	0	0	6	0	0	0

疾病年次		つが虫病	デング熱	ニパウイルス感染症	日本紅斑熱	日本脳炎	ハンタウイルス肺炎症候群	Bウイルス病	ブルセラ症	発しんチフス	ポツリヌス症	乳児ポツリヌス症	マラリア	野兔病	ライム病
西暦	元号														
1999	平成11	556	9	-	39	5	0	0	0	0	-	1	112	-	14

2000	12	791	18	-	38	7	0	0	0	0	-	0	154	-	12
2001	13	491	50	-	40	5	0	0	0	0	-	0	109	-	15
2002	14	338	52	-	36	8	0	0	1	0	-	0	83	-	15
2003	15	402	32	0	52	1	0	0	0	0	0	0	78	0	5
2004	16	302	45	0	67	5	0	0	0	0	0	-	73	0	4

疾病年次		リッサウイルス 感染症	レジオネラ症	レプトスピラ症
西暦	元号			
1999	平成11	-	56	-
2000	12	-	154	-
2001	13	-	86	-
2002	14	-	167	-
2003	15	0	146	1
2004	16	0	162	18

資料:「感染症発生動向調査」

注1:平成11年の報告数については、4月から12月までの数値である。

注2:平成16年の報告数については、概数である。(なお、重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る)、痘そう、E型肝炎、A型肝炎、高病原性鳥インフルエンザ、サル痘、ニパウイルス感染症、ポツリヌス症、野兔病、リッサウイルス感染症及びレプトスピラ症については、平成15年11月5日からの数値である。また、乳児ポツリヌス症は平成15年11月5日からポツリヌス症に含まれた。)

注3:ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)の報告数については、平成14年11月1日からの数値である。

感染症報告数(5類感染症【全数把握】)

(5類感染症)

疾病年次		アメーバ 赤痢	ウイルス性肝 炎(E型肝炎 及びA型肝炎 を除く)	急性脳 炎(ウエス トナイル 脳炎及び 日本脳 炎を除く)	急性脳炎 (ウエストナ イル 脳炎及び 日本脳炎 を除く)		クリプ ト スポリ ジウム 症	クロイ ツフェ ルト ・ヤコ ブ病	劇 症 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 感 染 症	後 天 性 免 疫 不 全 症 候 群	ジ ア ル ジ ア 症	髄 膜 菌 性 髄 膜 炎	先 天 性 風 し ん 症 候 群
西暦	元号				報 告 数	定 点 当 り 報 告 数							
1999	平成11	276	1,519	-	129	0.28	4	92	22	588	42	10	0
2000	12	378	991	-	149	0.32	3	108	47	794	98	15	1
2001	13	429	929	-	134	0.29	11	133	47	947	137	8	1
2002	14	465	948	-	108	0.23	109	147	92	916	113	9	1
2003	15	520	650	11	99	0.21	8	118	53	970	103	18	1
2004	16	587	301	157	-	-	91	168	53	1,127	85	22	10

疾病年次		梅毒	破傷風	バンコマイシン 耐性黄色ブドウ 球菌感染症	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症
西暦	元号				
1999	平成11	751	66	-	23
2000	12	759	91	-	36

2001	13	585	80	-	40
2002	14	575	106	-	44
2003	15	509	73	0	59
2004	16	519	100	0	50

資料：「感染症発生動向調査」

注1：平成11年の報告数については、4月から12月までの数値である。

注2：平成16年の報告数については、概数である。（なお、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症については、平成15年11月5日からの数値である。）

注3：ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）の報告数については、平成15年11月5日以前はE型肝炎及びA型肝炎を含む。

注4：急性脳炎（ウエストナイル脳炎及び日本脳炎）の報告数については、平成15年11月5日から全数報告に変更した。

感染症報告数（5類感染症【定点把握】）

疾病年次		インフルエンザ (高病原性鳥 インフルエンザ を除く)		RSウイルス 感染症		咽頭 結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎		感染性 胃腸炎		水痘		手足
西暦	元号	報告数	定点 当り 報告数	報告数	定点 当り 報告数	報告数	定点 当り 報告数	報告数	定点 当り 報告数	報告数	定点 当り 報告数	報告数	定点 当り 報告数	報告数
1999	平成11	65,471	15.32	-	-	10,726	3.73	90,283	31.40	507,592	176.55	162,424	56.50	50,814
2000	12	769,964	167.93	-	-	20,295	6.81	158,143	53.10	886,174	297.57	275,036	92.36	205,364
2001	13	305,441	65.70	-	-	25,642	8.49	154,932	51.32	874,241	289.58	271,409	89.90	127,754
2002	14	747,010	159.01	-	-	15,500	5.11	155,999	51.38	889,927	293.12	263,308	86.73	91,024
2003	15	1,162,290	247.14	1,392	-	40,751	13.40	166,566	54.77	906,803	298.19	250,561	82.39	172,659
2004	16	769,202	164.61	9,074	-	61,245	20.15	207,927	68.42	956,334	314.69	246,665	81.17	89,870

疾病年次		突発性 発しん		百日咳		風しん		ヘルパン ギーナ		麻しん (成人麻しん を除く)		流行性 耳下腺炎		急性出血 性 結膜炎	
西暦	元号	報告数	定点 当り 報告数	報告数	定点 当り 報告数	報告数	定点 当り 報告数	報告数	定点 当り 報告数	報告数	定点 当り 報告数	報告数	定点 当り 報告数	報告数	定点 当り 報告数
1999	平成11	95,737	33.30	2,653	0.92	2,972	1.03	154,802	53.84	5,875	2.04	69,070	24.02	1,084	1.84
2000	12	126,785	42.57	3,804	1.28	3,123	1.05	147,275	49.45	22,552	7.57	132,877	44.62	1,430	2.29
2001	13	125,228	41.48	1,760	0.58	2,561	0.85	140,215	46.44	33,812	11.20	254,711	84.37	1,338	2.11
2002	14	116,663	38.43	1,458	0.48	2,971	0.98	111,441	36.71	12,473	4.11	180,827	59.56	1,017	1.60
2003	15	116,755	38.39	1,544	0.51	2,795	0.92	148,674	48.89	8,285	2.72	84,734	27.86	1,019	1.61
2004	16	113,983	37.51	2,203	0.72	4,248	1.40	106,260	34.97	1,554	0.51	128,604	42.32	767	1.21

疾病年次		性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		クラミジア肺炎(オウム病を除く)		細菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		成人しん	
西暦	元号	報告数	定点当り報告数	報告数	定点当り報告数	報告数	定点当り報告数	報告数	定点当り報告数	報告数	定点当り報告数	報告数	定点当り報告数	報告数	定点当り報告数	報告数	定点当り報告数
1999	平成11	25,033	29.28	6,566	7.68	3,190	3.73	11,847	13.86	129	0.28	235	0.52	1,134	2.49	83	0.19
2000	12	37,028	41.28	8,946	9.97	4,553	5.08	16,926	18.87	178	0.39	256	0.56	2,090	4.55	426	0.95
2001	13	40,836	44.83	9,314	10.22	5,178	5.68	20,662	22.68	183	0.39	278	0.59	4,263	9.07	931	2.05
2002	14	43,766	47.73	9,666	10.54	5,701	6.22	21,921	23.91	245	0.52	300	0.63	4,282	9.05	440	0.97
2003	15	41,945	45.59	9,832	10.69	6,253	6.80	20,697	22.50	201	0.43	298	0.63	5,691	12.08	462	1.01
2004	16	37,735	40.93	9,667	10.48	6,524	7.08	17,369	18.84	249	0.53	388	0.82	5,861	12.44	60	0.13

疾病年次		無菌性髄膜炎		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
西暦	元号	報告数	定点当り報告数	報告数	定点当り報告数	報告数	定点当り報告数	報告数	定点当り報告数
1999	平成11	1,126	2.47	2,129	4.78	11,088	24.92	437	0.98
2000	12	1,873	4.08	4,321	9.46	18,013	39.42	555	1.21
2001	13	1,254	2.67	5,254	11.47	18,409	40.19	611	1.33
2002	14	2,985	6.31	6,132	13.19	20,214	43.47	716	1.54
2003	15	1,625	3.45	6,447	13.78	21,302	45.52	759	1.62
2004	16	1,052	2.23	6,696	14.28	21,801	46.48	669	1.43

疾病年次		定点数					
西暦	元号	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	
						週別報告	月別報告
1999	平成11	4,274	2,875	589	855	456	445
2000	12	4,585	2,978	625	897	459	457
2001	13	4,649	3,019	634	911	470	458
2002	14	4,698	3,036	634	917	473	465
2003	15	4,703	3,041	634	920	471	468
2004	16	4,673	3,039	635	922	471	469

資料:「感染症発生動向調査」

注1:平成11年の報告数については、4月から12月までの数値である。

注2:平成16年の報告数については、概数である。(なお、RSウイルス感染症については、11月5日からの数値である。)

トップへ

健康 厚生労働省ホームページ

ホーム | 新着情報 | 窓口一覧 | よくあるご質問 | ご意見 | リンク集 | サイトマップ

検索 拡張検索

トピックス

照会先:健康局結核感染症課情報管理係
電話 :03(3595)2263

性感染症報告数

性感染症報告数の年次推移

定点報告

		11年 4~12月	12年	13年	14年	15年	16年
定点医療機関数		855	897	911	917	920	916
淋菌感染症	総数	11,847	16,926	20,662	21,921	20,697	17,426
	男	10,115	14,196	17,205	17,591	16,170	14,299
	女	1,732	2,730	3,457	4,330	4,527	3,127
性器クラミジア	総数	25,033	37,028	40,836	43,766	41,945	38,155
	男	11,007	15,856	17,497	18,284	17,725	16,533
	女	14,026	21,172	23,339	25,482	24,220	21,622
性器ヘルペス	総数	6,566	8,946	9,314	9,666	9,832	9,777
	男	2,975	3,907	3,957	4,074	4,075	3,874
	女	3,591	5,039	5,357	5,592	5,757	5,903
尖圭コンジローマ	総数	3,190	4,553	5,178	5,701	6,253	6,570
	男	1,820	2,511	2,814	3,044	3,299	3,628
	女	1,370	2,042	2,364	2,657	2,954	2,942

全数調査

		11年 4~12月	12年	13年	14年	15年	16年
梅毒	総数	751	759	585	575	509	533
	男	482	512	400	395	388	408
	女	269	247	185	180	121	125

資料:「感染症発生動向調査」

性別にみた性感染症(STD) 報告数の年次推移

	定点報告					全数報告
	定点医療機関数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	梅毒

		総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男
平成11年 4～12月	855	25,033	11,007	14,026	6,566	2,975	3,591	3,190	1,820	1,370	11,847	10,115	1,732	751	482
平成12年	897	37,028	15,856	21,172	8,946	3,907	5,039	4,553	2,511	2,042	16,926	14,196	2,730	759	512
平成13年	911	40,836	17,497	23,339	9,314	3,957	5,357	5,178	2,814	2,364	20,662	17,205	3,457	585	400
平成14年	917	43,766	18,284	25,482	9,666	4,074	5,592	5,701	3,044	2,657	21,921	17,591	4,330	575	395
平成15年	920	41,945	17,725	24,220	9,832	4,075	5,757	6,253	3,299	2,954	20,697	16,170	4,527	509	388
平成16年	916	38,155	16,533	21,622	9,777	3,874	5,903	6,570	3,628	2,942	17,426	14,299	3,127	533	408

資料：「感染症発生動向調査」

性別にみた性感染症(STD) 定点あたり報告数の年次推移

	定点医療 機関数	定点報告											
		性器クラミジア感染症			性器ヘルペスウイルス感染症			尖圭コンジローマ			淋菌感染症		
		総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
平成11年 4～12月	855	29.28	12.87	16.40	7.68	3.48	4.20	3.73	2.13	1.60	13.86	11.83	2.03
平成12年	897	41.28	17.68	23.60	9.97	4.36	5.62	5.08	2.80	2.28	18.87	15.83	3.04
平成13年	911	44.83	19.21	25.62	10.22	4.34	5.88	5.68	3.09	2.59	22.68	18.89	3.79
平成14年	917	47.73	19.94	27.79	10.54	4.44	6.10	6.22	3.32	2.90	23.91	19.18	4.72
平成15年	920	45.59	19.27	26.33	10.69	4.43	6.26	6.80	3.59	3.21	22.50	17.58	4.92
平成16年	916	41.65	18.05	23.60	10.67	4.23	6.44	7.17	3.96	3.21	19.02	15.61	3.41

資料：「感染症発生動向調査」

年齢(5歳階級)別にみた性感染症(STD) 報告数の年次推移

性器クラミジア感染症

		総数	0～4歳	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～
総数	平成11年 4～12月	25,033	12	0	25	3,639	7,546	5,731	3,468	2,037	1,085	7
	平成12年	37,028	8	0	51	5,646	11,475	8,263	4,939	2,999	1,535	9
	平成13年	40,836	7	0	84	6,359	12,349	9,361	5,493	3,291	1,719	9
	平成14年	43,766	6	1	100	6,801	12,723	9,876	6,110	3,680	1,964	1,7
	平成15年	41,945	5	2	82	6,163	12,059	9,440	6,257	3,619	1,946	1,0
	平成16年	38,155	0	2	64	5,169	10,964	8,436	5,748	3,425	2,039	1,0
男	平成11年 4～12月	11,007	5	0	4	1,004	2,864	2,420	1,735	1,185	718	4
	平成12年	15,856	1	0	6	1,544	4,139	3,477	2,343	1,710	1,047	6
	平成13年	17,497	2	0	17	1,656	4,371	3,934	2,801	1,923	1,164	6
	平成14年	18,284	3	1	15	1,750	4,402	4,009	2,893	2,059	1,290	7
	平成15年	17,725	4	2	7	1,547	4,150	3,906	2,977	2,045	1,234	7
	平成16年	16,533	0	0	11	1,218	3,684	3,674	2,840	1,934	1,335	7

女	平成11年 4～12月	14,026	7	0	21	2,635	4,682	3,311	1,733	852	367	4
	平成12年	21,172	7	0	45	4,102	7,336	4,786	2,596	1,289	488	4
	平成13年	23,339	5	0	67	4,703	7,978	5,427	2,692	1,368	555	4
	平成14年	25,482	3	0	85	5,051	8,321	5,867	3,217	1,621	674	4
	平成15年	24,220	1	0	75	4,616	7,909	5,534	3,280	1,574	712	4
	平成16年	21,622	0	2	53	3,951	7,280	4,762	2,908	1,491	704	4

資料：「感染症発生動向調査」

年齢(5歳階級)別にみた性感染症(STD) 報告数の年次推移

性器ヘルペスウイルス感染症

		総数	0～4歳	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
総数	平成11年 4～12月	6,566	5	6	8	327	1,073	1,140	948	731	491	42
	平成12年	8,946	7	4	13	462	1,503	1,630	1,286	969	689	58
	平成13年	9,314	6	8	15	509	1,601	1,711	1,348	1,034	702	58
	平成14年	9,666	7	5	15	518	1,620	1,747	1,415	1,054	705	51
	平成15年	9,832	2	4	18	550	1,605	1,727	1,391	1,089	829	58
	平成16年	9,777	7	4	12	503	1,662	1,617	1,406	1,139	788	58
男	平成11年 4～12月	2,975	2	2	2	86	342	423	458	418	299	20
	平成12年	3,907	2	1	1	113	411	592	623	524	428	30
	平成13年	3,957	3	3	4	117	463	616	608	550	412	29
	平成14年	4,074	3	2	1	118	453	593	635	577	418	28
	平成15年	4,075	1	1	6	115	463	563	559	581	485	34
	平成16年	3,874	3	4	3	86	421	511	564	583	464	30
女	平成11年 4～12月	3,591	3	4	6	241	731	717	490	313	192	19
	平成12年	5,039	5	3	12	349	1,092	1,038	663	445	261	25
	平成13年	5,357	3	5	11	392	1,138	1,095	740	484	290	25
	平成14年	5,592	4	3	14	400	1,167	1,154	780	477	287	25
	平成15年	5,757	1	3	12	435	1,142	1,164	832	508	344	24
	平成16年	5,903	4	0	9	417	1,241	1,106	842	556	324	24

資料：「感染症発生動向調査」

年齢(5歳階級)別にみた性感染症(STD) 報告数の年次推移

尖圭コンジローマ

		総数	0～4歳	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
	平成11年 4～12月	3,190	4	2	6	412	1,009	656	416	243	165	10

総数	平成12年	4,553	1	2	3	654	1,347	911	597	361	247	15
	平成13年	5,178	2	4	6	640	1,530	1,082	690	456	279	18
	平成14年	5,701	3	2	8	698	1,564	1,209	839	536	349	20
	平成15年	6,253	4	0	10	740	1,606	1,308	967	622	371	21
	平成16年	6,570	2	5	10	599	1,517	1,337	1,139	751	436	29
男	平成11年 4～12月	1,820	2	2	4	157	470	354	298	195	123	7
	平成12年	2,511	1	1	2	231	576	500	422	261	190	11
	平成13年	2,814	1	3	4	209	634	560	452	350	216	15
	平成14年	3,044	2	1	2	179	599	613	567	415	264	17
	平成15年	3,299	3	0	2	206	567	649	620	449	287	16
	平成16年	3,628	2	5	4	124	545	700	731	547	331	22
女	平成11年 4～12月	1,370	2	0	2	255	539	302	118	48	42	7
	平成12年	2,042	0	1	1	423	771	411	175	100	57	3
	平成13年	2,364	1	1	2	431	896	522	238	106	63	3
	平成14年	2,657	1	1	6	519	965	596	272	121	85	3
	平成15年	2,954	1	0	8	534	1,039	659	347	173	84	4
	平成16年	2,942	0	0	6	475	972	637	408	204	105	6

資料：「感染症発生動向調査」

年齢(5歳階級)別にみた性感染症(STD) 報告数の年次推移

淋菌感染症

		総数	0～4歳	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～
総数	平成11年 4～12月	11,847	7	3	9	1,106	3,024	2,875	1,942	1,243	676	4
	平成12年	16,926	6	6	15	1,653	4,303	3,971	2,796	1,857	984	6
	平成13年	20,662	4	0	29	2,031	5,027	4,866	3,464	2,270	1,278	7
	平成14年	21,921	10	4	41	2,325	5,357	5,011	3,569	2,373	1,435	8
	平成15年	20,697	5	10	30	2,175	5,210	4,544	3,489	2,218	1,339	6
	平成16年	17,426	3	7	20	1,506	4,181	3,766	3,013	2,010	1,257	7
男	平成11年 4～12月	10,115	1	0	3	747	2,438	2,495	1,769	1,136	639	4
	平成12年	14,196	2	1	7	1,081	3,340	3,414	2,507	1,684	919	5
	平成13年	17,205	0	0	14	1,286	3,933	4,102	3,062	2,065	1,184	7
	平成14年	17,591	1	0	13	1,437	3,959	4,060	3,053	2,122	1,288	7
	平成15年	16,170	1	2	10	1,234	3,728	3,631	2,922	1,947	1,195	6
	平成16年	14,299	0	0	5	893	3,176	3,147	2,615	1,809	1,139	6
女	平成11年 4～12月	1,732	6	3	6	359	586	380	173	107	37	4
	平成12年	2,730	4	5	8	572	963	557	289	173	65	5
	平成13年	3,457	4	0	15	745	1,094	764	402	205	94	6
	平成14年	4,330	9	4	28	888	1,398	951	516	251	147	7

平成15年	4,527	4	8	20	941	1,482	913	567	271	144
平成16年	3,127	3	7	15	613	1,005	619	398	201	118

資料:「感染症発生動向調査」

年齢(5歳階級)別にみた性感染症(STD) 報告数の年次推移

梅毒

		総数	0～4歳	5～9歳	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～
総数	平成11年 4～12月	751	2	0	3	13	74	82	78	50	46	
	平成12年	759	7	0	0	17	74	94	67	61	51	
	平成13年	585	4	0	0	20	54	95	54	50	42	
	平成14年	575	7	0	1	23	47	83	79	56	38	
	平成15年	509	4	0	0	19	45	77	68	60	39	
	平成16年	533	5	0	0	23	69	83	73	65	60	
男	平成11年 4～12月	482	2	0	1	4	48	50	50	37	35	
	平成12年	512	4	0	0	8	45	55	53	50	46	
	平成13年	400	1	0	0	5	34	67	35	41	33	
	平成14年	395	2	0	0	15	33	51	50	44	35	
	平成15年	388	1	0	0	11	30	60	50	43	34	
	平成16年	408	4	0	0	10	48	66	55	55	54	
女	平成11年 4～12月	269	0	0	2	9	26	32	28	13	11	
	平成12年	247	3	0	0	9	29	39	14	11	5	
	平成13年	185	3	0	0	15	20	28	19	9	9	
	平成14年	180	5	0	1	8	14	32	29	12	3	
	平成15年	121	3	0	0	8	15	17	18	17	5	
	平成16年	125	1	0	0	13	21	17	18	10	6	

資料:「感染症発生動向調査」

トップへ

トピックス [厚生労働省ホームページ](#)



国立感染症研究所
感染症情報センター

English

[感染症情報センターについて](#) | [引用リンクについて](#) | [サイトマップ](#)

検 索

最新情報

- 3月28日 インフルエンザ流行レベルマップ[疾患別情報]
第11週(3月13日～3月19日)を更新しました
- 3月27日 感染症発生動向調査週報[IDWR]
第10号(平成18年3月6日～3月12日)
- 3月27日 インフルエンザ様疾患発生報告(学校欠席者数)[IDWR]
2005/06シーズン第17報
- 3月22日 高病原性鳥インフルエンザ[疾患別情報]
エジプトにおける状況-WHO更新
- 3月20日 病原体情報 月報(3月号)[IASR]
特集【細菌性赤痢 2003～2005】

更新履歴

疾患別情報

感染症情報センターのHPでとりあげた疾患、および予防接種についてジャンル別と索引で示しています。

詳細へ

サーベイランス

感染症発生動向調査 週報 (IDWR)

感染症流行予測調査

病原微生物検出情報 (IASR)

院内感染対策サーベイランス (JANIS)

各種情報

FETP-J 実地疫学養成コース

全国衛生研究所一覧

研修

全国保健所一覧

異種移植と感染症

EpiInfo

フォーカス Focus

- インフルエンザ
- 風疹
- 鳥インフルエンザ
- 予防接種情報



1～7歳未満のお子様へ **重要**
麻疹(はしか)・風疹の
予防接種をお早めに!

関連リンク

- 国立感染症研究所
- 厚生労働省
- 検疫所 海外感染症情報
- 地方衛生研究所ネットワーク
- (財)結核予防会結核研究所
- WHO Geneva
- WHO WPRO
- 米国疾病対策センター CDC



海外渡航者のための感染症情報





検索 by google

●海外渡航者向け

- 病気予防について
 - ▶ 旅行前の注意
 - ▶ 旅行中の注意
 - ▶ 旅行後の注意
- トピックス
- 国別情報
- 黄熱予防接種要求国
- 海外渡航と予防接種
- 感染症別情報
- お役立ち情報
- 関連情報リンク
- 各検疫所リンク
- 結核感染症課
 - 動物由来感染症
- 動物の輸入届出制度

●詳しい情報

- ProMED情報
 - ▶ 疾患名一覧
- 予防接種機関
 - ▶ 検疫所の予防接種

●その他

- 検疫所業務案内
- 各種電子予約

●ご意見・ご相談

- アンケートのお願い
- 検疫所の電話相談
- 検疫所の予防接種

TOTAL
0
 TODAY
1
 YESTERDAY
1

このホームページでは、海外渡航者が渡航先で感染症にかからないために、渡航者向け、旅行関係者、医療従事者向けに海外での感染症情報や医療情報の提供を行っています。

[このホームページの扱う情報と対象者](#)

[ホームページ利用のコツ](#)

**海外渡航者
のための
感染症情報**

注目 海外でペットを飼っている方、連れて行く方へ

平成17年9月1日より動物の輸入届出制度が実施され、海外からハムスター、リスなどの齧歯類、フェレットなどのいままで規制のなかったほ乳類、インコなどの鳥類を日本に持ち込むことが難しくなりました。ペットも対象ですので、ご注意ください。

What's New

- [ソマリアでポリオの発生\(2006年3月27日\)](#)
- [鳥インフルエンザ流行状況-更新73\(2006年3月27日\)](#)
- [スーダンでコレラの流行-更新4\(2006年3月23日\)](#)
- [アフリカ髄膜炎ベルトでの髄膜炎菌性疾患流行状況\(2006年3月23日\)](#)
- [南西インド洋諸国でチクングンヤ、デング熱の流行\(2006年3月20日\)](#)
- [バングラデシュでポリオの発生\(2006年3月17日\)](#)
- [ザンビアでコレラの流行\(2006年3月16日\)](#)
- [タンザニアでコレラの流行\(2006年3月16日\)](#)

[TOPへ戻る](#)

Copyright:1999-2001 Ministry of Health, Labour and Welfare Quarantine Station